

# 【小施策評価(平成30年度実績評価)】

## 小施策の総合計画における位置付け

基本目標	1	人がいきいきと暮らすまちづくり	小施策 主管課等	地域福祉課	
施策	1	地域福祉の推進	評価 責任者	工藤 浩統	内線 2520
小施策	1-2	共に支え合うことができる地域環境づくり	評価 シート 作成者	熊谷 修二	内線 2521

## 小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
隣近所付き合いの希薄化と活動の担い手不足などによる地域の支え合い体制への懸念や除雪や買い物といった日常生活支援に対するニーズが高まっている。 団塊の世代や若い世代の地域活動への参加促進などを通じた担い手の確保、見守り活動やサロン活動の推進、日常生活支援の活動拠点づくり、地域福祉を担っている地区福祉推進会への支援などにより、地域において支え合う環境を整備する必要がある。		一人ひとりが地域の一員として、共に支えあう意識を持ち、住み慣れた地域で、誰もが地域の一員として尊重され、自立した生活を送ることができる環境の整備を推進する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市民, 地域		共に支え合うことができる環境が地域に醸成される。

## 小施策の成果指標の達成状況・評価(平成30年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標①	単 位	目指す方向	成果点	⇒	成果の要因分析
避難行動要支援者情報提供同意者名簿登録者数 (町内会長等への情報提供に同意した人の数)	人	↗			
当初値 (H25)	12,545	R1目標値	14,000	R6目標値	14,000
			・避難行動要支援者情報提供同意者名簿更新時に、支援対象者に登録への同意を進める際に、同意が得られた方に対し、災害発生時に避難行動を取る際の補助となる「あんしん連絡パック」を配布した。	⇒	・全国で毎年の様に非常災害が群発し、住民による防災意識の高まりが見られることから、要支援者に対し、民生委員が避難行動要支援者情報提供同意者名簿への登録を進めることは、災害時に、要支援者に対し支援の手が広がるなどの安心感を生むものと考えられる。
			・同意をすることで個人情報の流出を懸念する方や、他者に支援を受けることを良しとしない方から同意を得られていない。	⇒	・世帯構成の多様化や、地域コミュニティの希薄など、地域社会を取り巻く環境が変化しており、地縁を中心とした地域福祉活動が、その機能を十分に発揮できない状況になっているものと考えられる。
			・支援を求める地域住民に対し、支援を提供したいと考える方が地域にも潜在的にいるものの、実際の支え合いにつなぐマッチング活動が機能するところに至っていない。	⇒	
			問 題 点	⇒	問題の要因分析

## 今後の方向性(令和元年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R1年度着手済または着手予定 ☆…R2年度以降の着手を検討
<p>★ 避難行動要支援者情報提供同意者名簿を年1回更新し、要支援者の把握に努めるとともに、65歳以上高齢者世帯類型調査などで得られた情報などを要支援者の支援にも活用する。</p> <p>★ 社会福祉協議会を通じ、ふれあいのまちづくり事業として、地域団体が高齢者のつどいの場等を創出するふれあいシルバーバーサロン事業等を開催し、地域福祉活動の充実を図る。</p> <p>★ 地域の福祉活動の担い手である地区福祉推進会の運営に係る経費について助成する。</p> <p>★ 地区福祉推進会が行う住民参加による地域ぐるみの福祉推進活動について助成する。</p> <p>☆1 寝たきりの支援者の把握の方策について検討し、導入する。</p>	